

監事監査報告書

令和7年5月21日

社会福祉法人 大慈厚生事業会
理事長 松井 尚子 殿

監事 長原 尚志 
監事 田丸 泰久 

私たち監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその附属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

① 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

3 追記情報

《会計》

各拠点の経理担当者と直接面談のうえ、職務の執行状況、経理処理の方法、証憑書類の保存状況等について具体的な説明を受けるとともに、計算書類、付属明細書、財産目録について相互の関連性、処理の適正性について監査しました。

日々の処理及び計算書類の作成は社会福祉法人会計基準に準拠しており、適正であることを認めます。

本年度の監査を通じ、経理担当職員の職務に対する真摯な姿勢と、高度な経理処理能力が引き続き維持されていることを改めて確認するとともに、帳簿書類の電子化の状況についても現状を確認し、これからの方向性について協議しました。

本年度の監査の結果、次の点について付言します。

1. 児童部門における帳簿書類の電子化は前年度から更に進化している状況ですが、高齢者部門は電子化への対応が思うように進んでいない状況であることから、膨大な処理業務量の合理化を図るためにも、帳簿書類の電子化に注力されることを要望します。
2. インターネット環境の進展によって経理規定の見直しも必要になっていると思料します。電子帳簿保存法等を踏まえた、帳簿書類の電子化保存規程、事務処理規程等その他広い範囲にわたる検討が必要です。
3. 社会の変革期のなかで高度な事務処理能力を維持しながら、時代に即応した環境を整備するためには、人材育成を欠くことはできないことは明らかですので、人材を確保し中長期の人材育成に注力されるよう要望します。

《処遇》

・法人全体

法人として、「夢プロジェクト」を主とした部門間の相互理解や協働へ向けた取組みにご尽力されており、法人の将来を見据えた素晴らしい取組みであると感じました。また、中長期計画の策定や IT の導入、新規事業への計画等、具体的な取組みも実施されており、更なる発展を期待できると感じる事が出来ました。

・高齢者部門

以前より実施しているコーチング研修による人材育成の取組みの成果が個人だけでなく、チーム力や組織力向上においても現れており、更にチームプロジェクトを推進し、高齢者部門全体として各事業所連携の上、各種事業への取組みが実施されていました。また、新たに人事評価制度の見直しにより、役割や評価基準が明確になり、個々人の目標も明確に取り組むことが出来るような仕組みが整備されており、更なる向上が期待できる仕組みであると感じました。

各事業所がそれぞれの施設の意義や目的を理解し、ゲストの満足、QOL 向上を第一に

様々な意見や苦情に対し真摯に対応されている姿、また、過剰な要求等に対しては毅然とした対応をされている姿に感銘を受けました。

また、各地域の関係団体と協働し、様々な地域貢献事業を実施しており、地域支援とともに法人、施設としての認知を広げ、相乗効果のある素晴らしい取り組みであると感じました。

・教育保育部門

子どもの人口が減少している少子化のなかにおいても、認定こども園、小規模保育園ともに多くの方にご利用いただいております。教育保育部門全体として選ばれる施設となるための取り組みをされていることが感じられました。こどもの安心、安全の確保を第一に、ヒヤリハットを含むリスクマネジメントへの取り組みやこどもの自主性を大切にした教育、保育のあり方の改善など、様々な取り組みに感銘を受けました。

また、児童館における親子間事業や子育て支援の充実を図る取り組みや、おやこふらっとひろば中央における地域への子育て支援の取り組みでは、子育て支援の地域拠点としての役割の充実が図られていました。

認定こども園、小規模保育園、児童館、学童コーナー、母子生活支援施設がそれぞれの専門性、役割による事業運営をするだけでなく、相互連携による人財育成や質の向上へ向けた取り組みや多岐にわたる地域支援への取り組みなど、教育保育部門の強みを感じることが出来ました。